

<https://socialistworker.co.uk/news/hands-off-venezuela-no-to-trumps-invasion/>

## ■ベネズエラに手を出すな、トランプのギャング侵略に反対だ

反戦活動家らは、英国政府に対し、米国によるベネズエラのニコラス・マドゥロ大統領の誘拐を非難するよう要求している。

ドナルド・トランプ氏は、ベネズエラ軍がニコラス・マドゥロ大統領を捕らえ、同国への空爆を開始したことを受け、米国が同国を「統治する」と宣言した。

ベネズエラ政府を転覆させ、暴力を解き放ち、ラテンアメリカを米国企業の遊び場にすることは、厚かましく露骨な帝国主義的攻撃である。

トランプ大統領は土曜日の記者会見で、「安全かつ適切で賢明な政権移行ができるまで、我々は国を運営していくつもりだ」と述べた。ベネズエラを誰が統治するのかと問われると、トランプ氏は自身とマルコ・ルビオ米国務長官を指さし、「しばらくの間は、主に私のすぐ後ろにいる人たちが統治することになるだろう」と述べた。

また「トランプ政権の下で、我々はアメリカの力を非常に力強く再確認している。未来は、国家安全保障の中核となる通商、領土、そして資源を守る能力によって決まる。これらは常に世界の力を決定づけてきた鉄則であり、我々はそれを維持していく」「我々はもうモンロー主義を忘れてはいない。西半球における米国の優位性は二度と問われることはない。そんなことは起こらない。世界最大級の米国石油会社が参入することになるだろう」と言い、さらに、「我々は地上軍を恐れてはいない」と述べ、米軍が「昨夜、非常に高レベルの部隊を地上に派遣した」と指摘した。

トランプ氏は、これが略奪のための計画であることを明確にした。「世界最大規模の米国の巨大石油会社を投入するつもりだ」と述べ、さらに「我々はすでにそこにいる。必要であれば、再び投入する準備はできている」と警告した。

米国は「ベネズエラに対して大規模な攻撃を実施」し、金曜日と土曜日にマドゥロ大統領夫妻を「捕らえ、国外に連行した」。ルビオ氏は、3800万ポンドの懸賞金がかけられていたマドゥロ大統領が裁判にかけられる」と述べた。

首都カラカスへの空爆とマドゥロ大統領の拉致は、ラテンアメリカにおける米国の支配を再び確立しようとするトランプ政権の計画における重大なエスカレーションである。トランプ政権は、「麻薬密売船」への攻撃とベネズエラにおける「政権交代」の要求を口実に、カリブ海における米軍の増強を進めてきた。

米国は、マドゥロ大統領の前任者である社会主義者ウゴ・チャベス氏が1999年に大統領に選出されて以来、ベネズエラで政権交代を強制しようとしてきた。これには、48時間以内に大衆運動によって阻止された2002年の悪名高いクーデターも含まれている。

米国はラテンアメリカの他の地域にも介入し、クーデター未遂や反動勢力を支援してきた。しかし、これは 1989 年にジョージ・H・W・ブッシュ元大統領がパナマで、かつて米国の傀儡独裁者であったマヌエル・ノリエガを排除して以来、初めての直接的な軍事介入である。

英国の反戦活動家らは、労働党政権にトランプ大統領の侵攻を非難するよう要求し、抗議活動を呼びかけている。

ストップ・ザ・ウォー連合のリンジー・ジャーマン代表は、「トランプ氏によるベネズエラへの爆撃は、可能な限りの強い言葉で非難されなければならない」「最近の米国の国家安全保障戦略は、米国帝国主義がラテンアメリカの『裏庭』への介入を自らの権利とみなしていると明記した」と述べた。

労働党政権は、米国帝国主義との英国の「特別な関係」を維持する決意から、これまで沈黙を守っている。

Your Party の議員ザラ・スルタナ氏は、「ベネズエラは世界最大の石油埋蔵量を有しており、これは偶然ではない」「これは露骨な米国帝国主義である。カラカスへの違法な攻撃は、主権国家を転覆させ、その資源を略奪することを狙っている。キア・スター・マー率いる労働党政権は、これを断固として非難しなければならない」と語った。

このエスカレーションの背景には何があるのか。これは、トランプ大統領が 12 月に発表した国家安全保障戦略(NSS)と軌を一にするものである。ここでホワイトハウスは、米国の霸権、すなわち世界を支配する能力の衰退に対抗するための新たな戦略の概要を示した。

この文書は、「米国は自らの世界支配という不運な概念を拒否する」と述べ、「中東諸国に対し、歴史的な統治形態を放棄させるという誤った試みを放棄する」としている。

しかし、それはアメリカ帝国主義の終焉を意味するものではなかった。むしろ、より露骨で略奪的な帝国主義への転換であり、いわゆる西半球、すなわちアメリカ大陸とグリーンランドを支配することに再び重点を置くようになった。

そこで国家安全保障戦略は、モンロー主義の「トランプ的帰結」について言及した。1823 年に初めて宣言されたこの戦略は、ラテンアメリカが米国の勢力圏に含まれるとし、ヨーロッパの帝国主義諸国に介入を禁じたものである。

今日、米国は「敵対的な外国の侵略や主要資産の所有権のない西半球を我々は望んでいる」と警告している。

これは、過去の米政権の政策を一部踏襲するものである。2021 年から 2024 年まで米南方軍を率いたオーラ・リチャードソン将軍は、「この地域が計り知れないほど豊富な資源を有していることは、競争相手も敵対者も知っている」と述べた。「世界のリチウムの 60% がこの地域にあり、重質原油、軽質スイート原

油、希土類元素も含まれている」「世界の肺と呼ばれるアマゾン川があり、世界の淡水の31%がこの地域に存在する。そして、我々のすぐそばに、毎日この地域を搾取する敵がいる」とも言った。

米国的主要な競争相手は中国であり、ベネズエラを含むラテンアメリカ諸国と緊密な経済関係を築いている。国家安全保障戦略では米国の中国重視は大幅に軽視されているものの、両国間の帝国主義的競争は依然として政策に影響を与えている。

米国は、ベネズエラの政権交代によって、その支配が大陸全土に浸透し、それに異議を唱えようとするすべての人々に衝撃を与えることを期待している。

ベネズエラは2000年代、左翼運動、進歩主義運動、帝国主義への抵抗運動の先駆者であった。

チャベスは1999年、新自由主義への民衆の抵抗の中で政権を握った。1989年のカラカス蜂起では、IMFの高利貸しが要求した「構造調整パッケージ」に対する労働者と貧困層の抵抗の波が起った。ベネズエラの支配階級は、チャベスや労働者、貧困層が政治に発言権を持つことの正当性を決して認めなかつた。

しかし、チャベス大統領が選出された後も、民衆は高い水準で動員と組織化を進めた。これにより、米国が支援するクーデターや、2003年に経済崩壊の危機に瀕した石油大手によるロックアウトといった、ベネズエラの有力者による妨害工作は阻止された。

マドゥロ大統領は、2013年に死去したチャベス大統領をかすかに彷彿とさせる存在であった。与党PSUVの周囲では責任を負えない官僚主義と汚職が蔓延し、一般のベネズエラ国民は深刻化する社会危機に直面していた。

これにより、2000年代の「ボリバル・プロセス」の絶頂期と比較すると、PSUVの労働者階級基盤の士気と動員力は低下した。

しかし、左派と労働運動は、曖昧な態度や不安に苛まれることは許されない。米国によるマドゥロ政権打倒は、ベネズエラとラテンアメリカ全域における解放のための闘争を後退させるだけである。

マドゥロ大統領夫妻の誘拐は戦争犯罪であり、ベネズエラ国民に対する悪質な攻撃の前兆である。主な敵は国内、すなわちホワイトハウスとダウニング街にいる。街頭に出て、アメリカ帝国主義に抵抗するベネズエラの人々と連帯を示し、英國政府にトランプのギャング的侵略を非難するよう求めよう。